

令和6年11月せとまちトーク

(市民と議会の意見交換会)

厚生文教委員会 11/9 Aグループ

①テーマ

No.2 瀬戸らしい子育て・学びについて

～保育園・部活動・不登校を考える～



②テーマに対してあなたが考える課題・問題点

- 情報の周知（にじの丘以外の瀬戸の教育環境）
- なぜ行政主導で多様な取り組みが出来ないのか？
- 学校の授業システム
- いじりだと思っても相手はいじめられてると思う
- 失敗ができない
- 結婚・妊娠・出産～子育て・教育まで一貫通サービス
- いじめについて情報の収集がされていない
- 人のつながりの減による子供の発達の遅れ
- 孤独な子育て…お手本・気軽に相談出来る存在
- 働くパパ・ママ…子供の不登校・病気 誰が対応する？

コロナ後、特に強まった



③課題・問題点を解決するにはどうしたらよいか（手法）

行政

地域

その他

- 情報発信のあり方（広報など
の見直し）
- 仕事のやり方、仕組みの見直し
- 外への発信
- 子育ての専門家
- DX

- 親育て・親どうしのつながり

- 必ずつながる場（母子手帳をも
らう時、入学の時）きちんと伝える
こと

④まとめ

- 産後支援を手厚く 情報伝達 相談出来る存在・場所
- 子育て立国（教育）を目指す

令和6年11月せとまちトーク

(市民と議会の意見交換会)

厚生文教委員会 11/9 Bグループ

① テーマ

No.2 瀬戸らしい子育て・学びについて

～保育園・部活動・不登校を考える～



② テーマに対してあなたが考える課題・問題点

- 待機児童対策 ●保育園の役割 ●保育士不足 ●保育以上の期待を持たれている
- 保育園に入れない子がいる
- 育児休暇明け4月とは限らない。途中から入れない
- 部活動の功罪・先生たちの負担と保護者の期待
- 不登校用の学校内施設の限界、きめ細かな接触・交流
- コミュニティスクールへの市民総参加に向けての支援・声かけ・広報



③ 課題・問題点を解決するにはどうしたらよいか（手法）

行政

地域

その他

- 保育士の給料改善
- 保育に対する行政の理解
- 不足の解消（給与・待遇）
- 担任・副担任の柔軟な対応
- 悩みを相談できる様に
- 不登校の子も参加しやすい部活の地域移行
- スクールカウンセラー・ソーシャルワーカーの勤務時間の変更
- 不登校生徒・児童へのアウトリーチに向け退職教員の活用
- 市民総参加の支援（自身体験、陶芸家）

- 様々な体験の場（スポーツ・芸術・陶芸・自然のふれあいなど）
- 不登校生徒、児童の行き先（フリースクール）と学校とのさらなる連携⇒マンパワーが必要
- 不登校になった子への支援・不登校にさせないための支援⇒コミュニティスクール化

④ まとめ

--

令和6年11月せとまちトーク

(市民と議会の意見交換会)

厚生文教委員会 11/10 Aグループ

①テーマ

No.2 瀬戸らしい子育て・学びについて

～保育園・部活動・不登校を考える～



②テーマに対してあなたが考える課題・問題点

- 不登校マイナスイメージ＝主体性が育たない
- 不登校は主体的に選択した結果「学校に行かない」
- 選択技の少なさ「学ぶ方法、居場所」
- ↑ ↓ 学校とは？何をするといい？学校にいかなくていい？
- 親、家庭、地域、学校…つながりのなさ
- 親の学ぶ機会
- 教育は子どもたちが考える能力をつける場と思うが
- 子供達が個性が無くなってきているのではないか（先生を含めて）
- 学校内で先生の発言が出来ないのでは？
- 教員制度に問題は無いのか—養成
- 学校教育が会社と同じになっていないか
- 全員にタブレットを配られているが、子どもの考える力などを削いでいる気がする
- 菱野団地の統廃合について、市民に開かれたものにして欲しい
- にじの丘学園の現状、小中一貫校の実際を知りたい
- 瀬戸の手作り給食は「おいしい」と評判だったので、続けて欲しい



③課題・問題点を解決するにはどうしたらよいか（手法）

行政

地域

その他

●学校と家庭教育（それ以外で学ぶ制度）の補完する制度 ●情報が届くように ●小人数学級で一人一人の子供と対応出来るようにすべき ●市独自で少人数学級にする ●外国籍の児童が増えているので、日本語教育を充実して欲しい	●つながる手法を社会全体で学ぶ（学校と保護者と地域と） ●親と学校、地域が対等と信頼でつながる	●学歴社会をぶっ壊す
---	---	--

④まとめ

- 現在の学校制度を考え直す
- 家庭（地域）教育の大切さ
- それらを支援する行政

令和6年11月せとまちトーク

(市民と議会の意見交換会)

厚生文教委員会 11/10 Bグループ

①テーマ

No.2 瀬戸らしい子育て・学びについて

～保育園・部活動・不登校を考える～



②テーマに対してあなたが考える課題・問題点

●今だに待機児童がいる

●部活が休みにくい

●学校の楽器が少ない、種類が他市町より少ない

●不登校を増加させない、手立てが出来ない

●不登校に気を使いすぎ

●心配な家庭のキャッチが出来ているか

●友人関係が必須——人見知りの子にとってはしんどい

●子供達や保護者のSOSが発信しやすい環境があるか（システム）

●不登校が問題ではなく、そこからひきこもりになる事が問題

●子ども若者センターが活きているか

○通学に名鉄バスはどうかと思う（にじの丘）（小学一年生とか小さな子が立ちながら乗っている危険性）

○学校が遠い（にじ）

○変な校則がある

○一人の環境があまりない

○通学路に横断歩道、信号、ガードレール等守るべきものが少ない

○図書館が小さすぎる

○制服を無くして欲しい

○行事の参加が強制的

○学校給食を無償化にして欲しい

○児童館がないこと

○アルプス処理水を飲んでも大丈夫というチラシ、放射能をあびても大丈夫という副読本を配らないで欲しい



③課題・問題点を解決するにはどうしたらよいか（手法）

行政

地域

その他

●月ごとに不登校の数を提出させ、月内 MVP 校を決めて全員に図書券を配る ●子どもの予算を増やして欲しい ●教育委員会に人材と予算を親子手帳、入園、入学式の時に、心配な家をチェックし、訪問する ●タブレットを使った SOS 発信が出来るようにする	○見守りの当番制 ○地域で子供の見守り（通学）をして欲しい	○市民からの理解—教育に関して
--	---	---

④まとめ

そもそも子育て教育に対しての予算を増やすべき

子ども中心の瀬戸市になるべき